

英語コーパス学会 Newsletter No. 40

Mar. 15, 2003

■会長: 今井 光規
■事務局: 〒770-8502 徳島市南常三島町1-1 徳島大学総合科学部 中村純作研究室
■TEL: 088-656-7129 ■郵便振替口座: 00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: jun@las.tokushima-u.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

< JAECS が ICAME の名誉団体会員第 1 号に >

2 月中旬に当学会会長宛てに、ICAME (International Computer Archive of Modern and Medieval English) の理事長 Matti Rissanen 先生 (Helsinki 大学) よりメールがあり、JAECS が ICAME の名誉団体会員 (Honorary Institutional Member) に推薦され、理事会において全会一致で決定された旨、正式に通知をいただきました。

会員諸氏もご承知のとおり、ICAME は 1970 年代に JAECS の名誉会員でもある Jan Svartvik, Jan Aarts, Geoffrey Leech, Stig Johansson などの先生方が中心となり結成され、Bergen 大学の Norwegian Computing Centre for the Humanities に事務局をおく、コーパスを利用した言語研究を推進するための国際機関です。現在の理事には Leech、Johansson の両先生のほか、やはり当学会の名誉会員である Graeme Kennedy、Karin Aijmer 先生も名を連ねており、年 1 回開催の国際会議や *ICAME Journal* の発行、Mailing List Corpora の運営の他、各種コーパスや検索ソフトの研究者への提供など幅広い活動を行っております。

JAECS は 10 周年を迎え昨年より幾つか記念行事を行っている最中ですが、このような時期に ICAME の名誉団体会員として認められたことは、我々にとってこの上ない喜びです。それも第 1 号の名誉団体会員ですので、学会創設から 10 年を経て、その活動が国際的に認められただけでなく、非常に高く評価されたこととなります。Rissanen 先生のメールによりますと、このことは本年 4 月 23 日から 27 日にかけて Channel Islands の Guernsey 島で開催される第 24 回 International ICAME Conference の総会において報告されるとのことです。この時期には我々の学会も丁度大会を開いておりますので、会長は出席できませんが、この会議に出席予定の山崎俊次先生 (大東文化大学) に会長代理として名誉団体会員証を受けとっていただくことになっております。

JAECS にとってとても嬉しいニュースですので、まず会員諸氏にお知らせしたいと思い、巻頭を飾らせていただきました。

事務局

1. 第 21 回大会のご案内

英語コーパス学会第 21 回大会は、4 月 26 日 (土) に、関西外国語大学短期大学部中宮キャンパス (〒573-1001 大阪府枚方市中宮東之町 16-1 : 072-805-2801(代)。「事務局から」の欄に簡単なアクセス方法) で開催されるはこびとなりました。会場校のご好意と大会準備委員である西村公正先生をはじめ、岡田啓、吉村耕治、田中廣明の諸先生方のご尽力に感謝いたします。

大会プログラムとレジュメを同封いたします。1 日だけの大会ですので、再び午前中にワークショップ、午後に研究発表とシンポジウムあるいは特別講演という従来の形に戻ります。今回は特別講演を準備いたしました。

研究発表第 1 セッションには木村まきみ先生 (文化女子大学室蘭短期大学) の「既存語彙と借用語の使い分け BNC にみる競合する語彙の分布」と、内田充美先生 (大阪女子大学) 柳朋宏先生 (中部大学)

による共同研究「英語とフランス語の < コピュラ + 不定詞 > 構文 パラレルコーパスを利用した分析」の 2 件の研究発表をお願いしました。続く第 2 セッションでも、吉村由佳先生 (慶応大学非常勤講師) の「学習英和辞典における -ly 副詞の効果的記述についての提案」と高橋薫先生 (豊田工業高等専門学校) 白井翔悟さん (同学生) の「社会言語学的視点による BNC の解析」と題した共同研究の 2 件の発表を準備しております。今回は、BNC、Word-banksOnline などの大型コーパスと Hansard、JOC などのパラレルコーパスが話題になります。BNC が World Edition として日本でも使用できるようになり既に 2 年以上経過しましたので、BNC に基いた成果が着々と生み出されている感じがいたします。また、日本で出版される学習英和辞典もコーパスに基づくものが幾つか出始めておりますので、従来型の辞典との比較も面白い話題だと思われま。発表者も全て若手で、学会の今後の発展を感じさせてくれます。ご期待ください。

大会を締めくくる行事としては特別講演を予定しております。講師には本学会の初代会長である齊藤俊雄先生をお願いいたしました。会員諸氏に改めて齊藤先生をご紹介する必要はないと思いますが、先生はこの3月で最後の職場であった大東文化大学での教員生活に区切りをつけると共に、当学会の運営委員も引退され、悠悠自適の生活に入られることになりました。このことを記念し、またお祝いする意味でも是非講師をお引き受けいただきたいとの事務局のお願いに快く応じていただきました。先生には、過去の研究生活を振り返っていただき、コーパスを利用した研究を始めた経緯やその成果、現在興味を持たれているテーマ、更に今後の学会に対する提言なども含めて「私のコーパス言語学研究への道」と題したお話をさせていただく予定です。こちらもご期待ください。

恒例となっております午前中のワークショップには赤野一郎先生(京都外国語大学)と井上永幸先生(徳島大学)のお二人を講師としてお願いいたしました。両先生は昨年末三省堂より出版されたコーパスに基いた英和辞典『ウィズダム』の編集委員をお勤めになられています。今回は、その経験をもとにしたコンコーダンスの利用法について、「コンコーダンスラインから何を読み取るか」と題したワークショップをお願いしました。ここ数年の間、ワークショップではコンピュータを実際に使用しながら検索ソフトや統計の実習を行うことが中心でした。今回はハンドアウトとして幾つかの単語のコンコーダンスを準備していただき、それを見ながら実際にどのような情報が読み取れるのかをワークショップ形式で指導していただくことになっております。検索ソフトを使いこなすことも大切ですが、ソフトから得られる情報の分析も同じように重要です。東京地区では東支部主催で Leech 先生や Biber 先生にお願いしてこの種のワークショップを何度か開催いたしました。関西地区では初めての試みです。是非、ご参加ください。参加御希望の方は、あらかじめ事務局宛てに、葉書あるいは電子メールでお申し込みください。先着 50 名で締め切らせていただきます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です(非会員の場合は当日会費 1,000 円)。

以上が大会プログラムの概要です。この他にも、恒例になっております懇親会が大会終了後に開かれます。巻頭でお知らせしましたように、JAECs が ICAME の名誉団体会員第 1 号となりました。事務局ではこのお祝いも兼ねて盛大な会になることを願っております。なお、懇親会へのお申し込みは、当日、大会会場の受付をお願いいたします。

大会関連のお知らせは以上です。新装なった関西外国語大学短期大学部中宮キャンパスでお会いできることを会長、大会準備委員、事務局ともどもお待ちしております。

2. 『英語コーパス研究』第 10 号について

『英語コーパス研究』第 10 号(2003)への投稿状況につきましては、前号のニューズレターでお知らせしましたが、その後の進捗状況については以下の通りです。

特別寄稿論文 1 名(Jan Aarts 先生)
論文 6 名、研究ノート 2 名、紙上シンポジウム
2 本

現在、査読作業を終え校正段階に入っています。審査委員の先生方には、お忙しい時期に査読作業を快くお引き受けいただき、丁寧な助言を賜りました。この場を借りて、厚くお礼を申し上げます。4 月 26 日関西外国語大学短期大学部で開催される第 21 回大会での配布に向けて、編集委員一同、最善をつくす所存です。引き続き会員の皆様のご支援ご協力のほどお願い申し上げます。

なお編集委員として長年ご活躍いただいた西納先生、吉村先生はその役をとられました。かわりに大津智彦、塚本聡両先生に加わっていただき、山崎、保坂、深谷とあわせて 5 名体制で編集を進めていることも報告します。

『英語コーパス研究』編集委員会
深谷 輝彦

3. 東支部活動報告

JAECs Newsletter No.39 以降の東支部の活動についてご報告いたします。

「第 9 回コンピュータ講習会」について

大東文化大学の招待で、BNCWeb を開発した一人であるチューリッヒ大学の Sebastian Hoffmann 氏が来日され、BNCWeb の基本的な利用方法について講習されました。Hoffmann 氏の語ったところによると、北アイルランドの大学で講演会があったときに SARA 製作者の Lou Burnard 氏から、「BNCWeb は余りに使い方が簡単すぎて困る」といわれたほど、初心者にも簡単に使え、また上級の使い方もできる利用価値の高い検索ソフトであると思われます。基本的に Unix のサーバーにインストールして、各自アクセスして使う方法なので面倒なようですが、一度システムを構築すると学生にも教員も楽に検索が可能になることを講習していただきました。この講習会には、北海道大学や、東京の大学・高校はもちろん、名古屋の大学からも参加者があり、熱心に講習をうけた後に CD-ROM を購入してインストールの仕方、使い方を直接聞いていた人が多く見うけられました。今後、様々な講習会を企画する予定ですが、会員で特に希望

するトピックがあれば直接、東支部の監事にご連絡ください。

「第10回コンピュータ講習会」の予定

今年の初めに、初心者対象のWordsmithの有効利用の講習会を予定していましたが、講師の都合で今年の中頃に延期となりました。詳細は未定ですが、確定次第、MLを通じてお知らせいたしますので、多くの会員が参加されること期待しております。

JA ECS 東支部支部長
山崎俊次

4. JA ECS10 周年記念論文集について

JA ECS 創立10周年を記念する行事は、昨年名古屋での第20回大会を10周年記念大会とし、その席上で学会賞の発表を行い、2つを無事終えることができました。残るは10周年記念論文集の刊行のみとなりましたが、既に1昨年よりその計画を会員諸氏にお知らせした上、編集委員会を立ち上げ、論文の募集、審査などを行って来ました。昨年1月時点での応募希望者数は22名、昨年9月末日の原稿提出締め切りを10月末に延期、その時点での応募者は16名でした。その後、各論文につき3名の査読委員をお願いし、その結果を1月末にすべての応募者にお送りしました。現在、査読委員のコメントを参考に、応募された先生方には改訂作業を行って頂いております。

大幅に予定が遅れておりますが、編集委員会ですでに昨年末の段階で、当学会の10周年を記念するにふさわしい論文集として刊行するためには、再度、会員諸氏の投稿をお願いする必要があると判断いたしました。そこで、JA ECS 運営委員会の了承を得た上で、再公募のお知らせを1月15日付けで会員諸氏にお送りいたしました次第です。ここに投稿規程を再度掲載いたしますので、まだご応募頂いていない会員諸氏には是非ご一読いただき、ご応募願えたらと思っております。

【投稿資格】投稿時点で本学会会員であること。

【原稿の種類】英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究論文

【用語】英語

【書式】所定のTemplateを応募者に配布する。

【長さ】所定のTemplateを使用して、15~20枚。

【原稿提出締め切り】2003年6月10日(ネイティブスピーカーのチェックを受けた原稿とする。)

【審査方法】編集委員会が審査にあたる。

【審査結果の発表】2003年7月20日

【カメラレディの最終稿締め切り】2003年8月31日

【出版】2004年4月春季大会時

執筆要領、Templateなどは事務局にご請求ください。その際、タイトル(仮題)と簡単な執筆方針もお送りください。

なお、名古屋大学での10周年記念大会で特別講演を頂いたStig Johansson先生には講演原稿に手を加えていただき“Corpus linguistics – past, present, future: A view from Oslo”として10周年記念論文集の巻頭に掲載する予定にしており、このことに関する本人の了承も得ております。

5. David Denison 先生(マンチェスター大学)と Olga Fischer 先生(アムステルダム大学)の講演会開催のお知らせ

6月のはじめに、マンチェスター大学のDavid Denison氏とアムステルダム大学のOlga Fischer氏が名古屋大学の招待により来日されます。この機会を利用して関西地区でも両氏に講演をお願いできればと考えております。Denison氏は、早い時期からコーパスを歴史言語学の分野で使用し、ご自分でコーパスの編纂も手がけております。現在、Corpus of Late Modern English ProseとCorpus of Late Eighteenth-Century Lettersを公開しています。(http://www.art.man.ac.uk/ENGLISH/staff/DD/home.htm)また、コーパスは公開していませんがFischer氏も最近の研究のほとんどにおいて歴史的コーパスを使用しておられます。JA ECSにも歴史的コーパスを利用している会員が沢山おられますので、関西地区でもお二人の講演会を下記のとおり行いたいと思います。なお、日本中世英語英文学会および京都大学との共催の予定です。

[講師および演題]

David Dennison, Professor, University of Manchester,
“Arguing with determination: class conflict in English nominals”

Olga Fischer, Professor, University of Amsterdam, “A study of adjectives in Middle English”

[日時] 2003年6月2日(月)午後4時30分より

[場所] 京都大学文学部新館地下大会議室

[問い合わせ・申込み先]

家入葉子先生宛

開催予定日は月曜日ですが、時間に都合がつく会員のみなさまには是非ご参加いただければと思っております。(参加ご希望の方は、事前に家入葉子先生までご連絡いただければ幸いです。)

6. 新入会員紹介

(住所・電話番号については、郵送されるニューズレターをご参照ください)

住所、所属などに変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添えください。

JAECs Newsletter No. 39 (2002年11月16日発行)
以降の新入会員の方は次の通りです(3月10日現在、敬称略)

久島 智津子(北海道大学大学院国際広報メディア
研究科院生)

田中 正道(広島大学情報メディア教育研究センター)

吉澤 博志(都立大泉高等学校(4月より))

若山 真幸(上越教育大学言語系教育講座)

7. 名簿訂正のお願い

(住所・電話番号については、郵送されるニューズレターをご参照ください)

会員名簿の記載内容に変更や誤りがございます。誤りについては事務局の勝手をお詫びいたしますとともに、以下のようにご訂正ください。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報ください。

住所、電話番号の変更

市川 真矢

田畑 圭介

西部真由美

住所の変更

水野 和穂

住所の訂正

藤原 康弘

E-mail アドレスの訂正

家入 葉子

E-mail アドレスの変更

田中 廣明

8. 事務局から

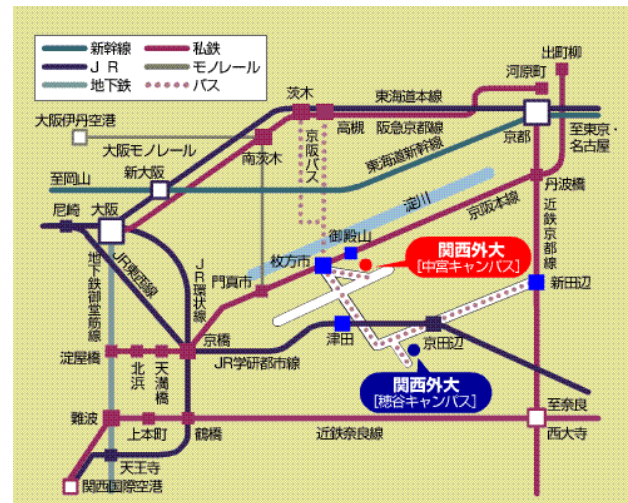
会費納入のお願い

4月26日大会当日の受付は混雑が予想されますので、2003年度会費(一般5,000円、学生4,000円)はできれば郵便振替でお納めください。納入用の振替用紙を同封いたします。その際、郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきますが、ご了承ください。

2002年度会費未納の方は、2003年度分と合わせてお納めください(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦ください。会誌『英語コーパス研究』第10号は2002年度の会費を納入していただいた方にのみ配布となります。また、2年続けて会費未納の場合、JAECs Newsletterなどの送付を中止させていただきます。

関西外国語大学短期大学部へのアクセスについて冒頭の「第21回大会のご案内」でも述べましたように、春の大会は関西外国語大学短期大学部中宮キャンパス(〒573-1001大阪府枚方市中宮東之町16-1:072-805-2801(代))で行われます。詳細は<http://www.kansaigaidai.ac.jp/www/j0000001.htm>参照。

関西外国語大学・中宮キャンパスへの交通手段は下のアクセスマップを参照してください。



JR環状線・京橋駅(のりかえ)京阪・京橋駅
枚方市駅(あるいは、JR新大阪(のりかえ)地下鉄御堂筋線・新大阪 淀屋橋(のりかえ)京阪・淀屋橋 枚方市駅)(注意:京阪・淀屋橋でも、京阪・京橋でも、必ず「急行」か「準急」にご乗車ください。特急は、枚方市駅には止まりません。)

(2)JR京都駅からの場合:JR京都駅(のりかえ)近鉄・京都駅 近鉄・丹波橋(のりかえ)京阪・丹波橋 枚方市駅(注意:京阪電車・丹波橋からは必ず「急行」か「普通」にご乗車ください。特急は、枚方市駅には止まりません。京阪・御殿山(普通しか止まりません)からは、徒歩になります。初めての方は、道がわかりにくいので、枚方市駅で下車されてバスの方が便利です。)

両ルートとも、関西外大へ到着まで約1時間をみておかれるといいと思います。

京阪の枚方市駅からのバスの利用方法は以下の通りです。

(1)京阪電車枚方市駅で下車 京阪バス北口 のりば。片鋒・小倉町行きに乗車 関西外大で下車(約10分)(同じ乗り場で、小松団地行きに乗りますと、関西外大西門で降りることになります。西門は初め

ての方にはわかりにくいので、片鉾・小倉町行きに乗ってください)

(2)京阪電車枚方市駅で下車 京阪バス北口 のりば。長尾駅・樟葉駅方面行きなど のりばのどのバスに乗っても結構です 関西外大で下車(約 10分) こちらのの方の本数が断然多いです。

当日は土曜日ですので道が混雑する可能性があります。タクシーに乗っても所要時間は変わりません。

枚方市駅で、京阪バス南口の「穂谷外大行き」には決して乗らないようにご注意ください。同じ関西外大行きですが穂谷キャンパス(国際言語学部)の方へ行ってしまう。中宮キャンパスは外国語学部がある場所です。

なお、宿泊に関しては、適宜お考え頂ければと思っております。

事務局変更の予告

英語コーパス学会の事務局長は現在中村純作(徳島大学)が務めさせていただいておりますが、1998年の4月の運営委員会の決定を受けての就任ですのでかれこれ5年が経過いたしました。その間、学会の事務局を預かり、十分な仕事ができただろうかは非常に心もとないところであり、会員諸氏には色々とお迷惑をおかけしたことと思います。このたび、一身上の都合で徳島大学を中途退職、新しい職場に移る事になり、これを機会に事務局をどなたかにご担当頂ければと思っておりました。そこで、新しく事務局を担当して頂ける先生を捜しておりましたところ、事務局長として最適の方が見つか、内諾も得ております。

最終的には、春の大会の前日に開催される運営委員会にお諮りし、総会でのご報告となりますが、慣例に従いこの春の大会とこの *Newsletter* は中村のもとでの開催、編集ということになります。従って、大会関連の文書、*Newsletter* では、事務局の住所が、現在中村が在職しております徳島大学総合科学部となっておりますが、春の大会以降は新しく事務局長をお引き受けいただく先生の勤務校に変更になります。総会、あるいは次号 *Newsletter* で新しい住所はお知らせいたしますが、当分の間、現事務局宛ての学会関連の郵便物は転送する手続きをとり、遺漏の無いよう処理をすることにしております。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案ください。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近

なコーパス研究のエピソードなどでも結構ですのでお寄せください。

FORUM

BNCweb を利用した British National Corpus の検索セミナー

大阪大学 田畑 智司

平成 14 年 12 月 3 日、大阪大学大学院言語文化研究科にて、BNCweb の作者の一人である Sebastian Hoffmann 先生(チューリッヒ大学)をお招きし、BNCweb を用いた British National Corpus の検索セミナーを開催いたしました。当日は、関西地区在住の JAECS 会員および開催校の教職員・大学院生を合わせ、20 名余りの参加者があり、Hoffmann 先生による BNCweb の諸機能の説明と共に、検索法のデモンストレーション、さらに参加者によるハンズオン・セッションや質疑応答が行われました。デモンストレーションでは、助動詞 *shall* を例に取り、生起頻度統計、KWIC コンコーダ作成、コロケーション検索などの基本的な使用法に始まり、書き言葉と話し言葉での頻度差、テキスト・タイプやドメイン、使用域、話者(著者)の性別・年齢層などによる頻度分布の相異が一覧表の形で表示される優れた機能が紹介され、参加者の注意を集めていました。その一方、話者の年齢層によって、助動詞 *shall* の用法上の相異があるという事実が呈示され、頻度表の数値を鵜呑みにすることの危険性(コーパス言語学の陥穽)、そして常に用例・用法を確認し**統計値の裏に隠れている言語事実を考察することの必要性**、を Hoffmann 先生が強調されていたのは大変ありがたいことでした。セミナー終了後、懇親会が行われ、Hoffmann 先生を囲んでの歓談が夜遅くまで続きました。

現在、大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科では専用の Linux サーバ上で、BNC および BNCweb の稼働を行っており、教職員・学生が利用しています。筆者も 2003 年度の大学院の授業では BNCweb を積極的に活用する計画です。

最後になりましたが、このような大変有益で貴重な機会を与えて下さった大東文化大学の山崎俊次先生、そして今井光規会長と中村純作事務局長に心よりお礼申し上げます。

英語コーパス学会 Newsletter No. 41

May 20, 2003

■会長：今井 光規
■事務局：〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 京都外国語大学 赤野一郎研究室
■TEL：075-322-6103 ■郵便振替口座：00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: i_akano@kufs.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

1. 第 21 回大会報告

英語コーパス学会第 21 回大会は、4 月 26 日(土)に、関西外国語大学短期大学部の真新しい中宮キャンパスで開催されました。早朝激しく降った雨も止み、事務局の調べでは会員の参加者 76 名、新入会員 11 名、当日会員 17 名、賛助会員 1 名の合計 105 名の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは、「コンコーダンスラインから何を読み取るか」と題して、井上永幸先生(徳島大学)と事務局の赤野一郎(京都外国語大学)が講師を務めました。今までのパソコンを使った操作中心のワークショップと趣を変え、紙上でのデータ分析という方法を取りましたが、結果的には参加者自らが与えられたデータを分析する演習に適した方法であったようです。「わかりやすかった」「とても勉強になった」というコメントを参加者からいただき、井上先生共々、喜んでおります。50 名の募集人員でしたが、最終的には 63 名の方に参加いただきました。この方面の関心の高さが窺われます。ワークショップの参加者はこのところいつも 50 名を上回っていますので、新しい会員を対象にしたワークショップは今後も継続していくつもりです。より良いワークショップにしていいため、会員諸氏のご提案、ご要望を募る次第です。是非事務局までお寄せください。

午後の大会では、今井光規会長(摂南大学)の挨拶の後、開催校を代表し谷本貞人学長からお言葉をいただきました。次いで議長を岡田啓先生(関西外国語大学短期大学部)にお願いし、年次総会が開かれ、平成 14 年度の決算と平成 15 年度の予算をお認めいただきました。大会に出席でなかった会員諸氏には、その内容と、学会会計の監査を担当頂いております西村道信先生(追手門大学)の監査報告の写しを同封いたします。ご確認下さい。

今大会では研究発表 2 セッションと特別講演を準備しました。研究発表第 1 セッションでは、木村まきみ先生(文化女子大学室蘭短期大学)の「既存語彙と借用語の使い分け - BNC にみる競合する語

彙の分布から - 」と内田充美先生(大阪女子大学)柳朋宏先生(中央大学)による共同研究「英語とフランス語の<コピュラ+不定詞>構文 - パラレルコーパスを利用した分析 - 」の研究発表が行われました。続いて第 2 セッションでは吉村由佳先生(慶応義塾大学非常勤講師)の「学習英和辞典における -ly 副詞の効果的記述についての提案」と高橋薫先生(豊田工業高等専門学校)白井翔悟さん(同学生)の「社会言語学的視点による BNC の解析」と題した共同研究の 2 件の発表が行われました。

今回の研究発表では JOC、Hansard のパラレルコーパス、WordBanksOnline、BNC の大規模コーパスが利用され、語彙分布、構文比較、辞書記述、社会言語学的観点から行った計量分析など多彩で、それぞれに興味深くレベルの高い内容でした。

今大会を締めくくる特別講演では、齊藤俊雄先生(大阪大学名誉教授)をお招きして、「私のコーパス言語学への道」と題したご講演を拝聴いたしました。齊藤先生は当学会の初代会長で日本における英語コーパス言語学の基礎を築かれ、まさに先生のご経歴が我が国の英語コーパス言語学の歴史と言っても過言ではありません。この講演では、今までのご研究を振り返りながら、英語コーパス学会設立に至る経緯とその後の発展を、主な業績と関係づけながらお話しになりました。設立当初から当学会に関わっている者にとって、懐かしくまた今後の励みになる感動的な講演でした。

大会終了後の懇親会には 40 名を越す会員に出席していただきました。田中廣明先生(関西外国語大学)に司会をお願いし、今井会長挨拶、齊藤先生による乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換で大いに盛り上がりました。8 時前に全ての大会行事が終了いたしました。

全国でもこれほど美しいキャンパスはないと思われる関西外国語大学短期大学部中宮キャンパスで行われた第 21 回大会も、無事、成功裏に終えることができました。これも、西村公正先生を中心に、岡田啓先生、吉村耕治先生、田中廣明先生方の

お力添えがあったのでした。この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。また、明るく、礼儀正しい学生さんにも会場準備、受付などのお手伝いをいただきお世話になりました。重ねてお礼申し上げます。

2. 人事に関する決定事項について

大会前日の4月25日午後6時より開かれた運営委員会において人事案件がいくつか承認されました。まず、齊藤俊雄先生が定年で運営委員を降りられ、後任に梅咲敦子先生（立命館大学）が選出され承認されました。大津智彦先生（大阪外国語大学）は一身上のご都合ということで、退任のご希望が了承されました。大津先生には編集委員としてはお残り願います。なお、後任につきましては、適任者が見つかるまで空席といたします。

赤野一郎が中村純作先生（立命館大学）の後を受けて事務局長を務めることが提案され、承認されました。中村先生は5年の長きにわたって事務局長として、学会の発展に努められました。感謝申し上げます。今後も学会のために大所高所からご助言賜りますようお願いいたします。

事務局の変更に伴い、赤野が学会賞選考委員長を降り、後任として中尾佳行先生（広島大学）が選出され承認されました。

3. 第22回大会の日程と研究発表募集について

2003年度の秋の大会（第22回大会）は10月25日（土）明海大学浦安キャンパス（〒279-8550 千葉県浦安市明海8、東京駅からJR京葉線快速で約17分、TEL: 047-355-5120（内線1622）URL: <http://www.meikai.ac.jp>）で開催される運びとなりました。会場校の大会準備委員である投野由紀夫先生のご協力を得つつ、準備に取りかかっております。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければと思っております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、郵便で事務局にお申し込みください。

【応募締切】2003年6月30日（月）

【提出物】A4判25字×32行で4枚以内にまとめてハードコピー4部を提出する。ただし、参考文献表は枚数に含めない。論文冒頭には題名のみを記す。氏名（ふりがな）、所属・職名、住所、電話番号、電子メールのアドレスを明記した別紙を添付すること

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【採否決定】2003年7月下旬（予定）

【その他】

1. 時間 発表25分+質疑応答10分（応募数により短くなることもある）
2. 資格 本学会会員であること

今年度春の大会時の運営委員会で、来年春の第23回大会は京都外国語大学で、秋の第24回大会は日本大学文理学部で開催されることに決定いたしました。会場校の先生方にはお世話になりますが、よろしく願いいたします。なお、詳しい日程などはその都度、*Newsletter*でお知らせいたします。

4. 会誌『英語コーパス研究』第10号について

第10号巻頭には、英語コーパス学会の10年間に総括する今井会長の挨拶文を掲載しています。次に本学会の名誉会員でありかつ第19回大会で特別講演をされたJan Aarts先生からご寄稿をいただきました。コーパス言語学研究者がコーパスをどのように用いているか、丁寧に議論されています。

第10号では6本の論文を載せています。木村まきみ先生は英語の本来語と借入語の違いをOED2とBNCで調べています。有名なPear Filmを用いて作成したパラレルコーパスを基に、指示表現と談話構造の関係をセンタリング理論の枠組みで論じる谷村・吉田論文、自ら構築した押韻俗語データベースから、押韻俗語の特徴を整理する渡部論文、と多彩な論文が並んでいます。さらに応用コーパス言語学的論文も三編あります。学習者コーパスを利用しながら、日本人英語学習者の *maybe, perhaps, probably* の使用実態を明らかにする小林多佳子先生、因果関係を示す接続語の使い方を調査したFujiwara先生の論文は本学会誌に新しい風を吹き込んでいます。Yamashita・Ito両先生は、BNCに含まれるテキスト難度指標をもとに「何がテキスト難度を決めるのか。」という問題に取り組んでいます。研究ノートとして採用された小原平先生並びに鳥越秀和先生の研究グループのそれぞれのご研究は、コーパス言語学の新しい世界を果敢に切り開くような進取の精神に富む論考と言えます。

最後に20回大会で開催されたシンポジウムは、英語コーパス言語学の現状と将来について展望を与え、学会員の多くが日々その身を置く教育と研究という場でコーパスをどう生かすか、という問題について多くの示唆を与えてくれました。そこで講師の先生方をお願いしましてご発表内容を基に全部で9本の論文にまとめていただきました。大会での

シンポジウムのみならず、今回の原稿執筆にあたりまして、赤野一郎先生、八木克正先生にはまとも役を務めていただき、編集委員会を代表して心よりご協力に感謝申し上げます。

論文を投稿された執筆者の方々に感謝申し上げますとともに、審査の過程で査読にご協力いただいた先生方、編集の様々な場面で援助を惜しまれなかった山崎俊次、保坂道雄、大津智彦、塚本聡編集委員、編集上困ったときにいつも助け船を出してくださった今井光規先生、事務局の中村純作先生にこの場を借りて心よりお礼を申し上げます。

なお、今回は印刷所の方の手違いで 21 回大会当日配布しました会誌では、表紙の文字の位置にずれがみられました。現在訂正版を作成しております、5 月末から 6 月にかけて学会員の皆様のお手元に届くよう準備を整えています。第 10 号という節目の号でこのようなミスがでましたことをお詫びすると同時に、今後このような事故がないように編集委員会として最大限の努力をするつもりです。

深谷輝彦（椋山女学園大学）
『英語コーパス研究』編集委員会

5. 会誌『英語コーパス研究』第 11 号について

『英語コーパス研究』第 11 号の原稿を次の要領で募集いたします。会員各位の積極的な投稿をお待ちしております。

【原稿の種類】

1. 英語コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた「研究論文」、「研究ノート」
2. 「コーパス紹介」、「ソフト紹介」、「書評」、「海外レポート」、「論文紹介」などの各種情報あるいは紹介原稿

【投稿申込締切】2003 年 6 月 30 日（月）

（氏名、所属、原稿の種類とタイトルを事務局までお知らせください。）

【原稿提出締切】2003 年 9 月 30 日（火）

（ハードコピー 4 部およびフロッピーディスクを提出。）

【原稿提出先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3
椋山女学園大学国際コミュニケーション学部
深谷輝彦宛

【原稿の長さ】

1. 研究論文
英文 70 ストローク × 35 行 × 15 枚以内
和文 35 字 × 30 行 × 15 枚以内
（いずれも Abstract（英文）、注、書誌を含む。）

2. 研究ノートは 10 枚以下、その他は研究論文の半分以下。

【書式】第 10 号所収の論文を参考にしてください。
詳細は学会ホームページ（<http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/Guidelines/index.html>）でご確認ください。

【採用通知】11 月頃

【刊行予定】2004 年 3 月 25 日

【問い合わせ先】

〒464-0802 名古屋市千種区星ヶ丘元町 17-3
椋山女学園大学国際コミュニケーション学部
深谷輝彦
TEL: 052-781-5408（ダイヤルイン）
052-781-1186（大学代表）
FAX: 052-781-6133

『英語コーパス研究』編集委員会

6. 平成 14 年度の東支部の活動について

JAECS Newsletter No.40 以降の東支部の活動についてご報告いたします。

今年度の活動予定

東支部の活動については、Newsletter で毎回その報告をしていますように、会員数が比較的少なく、さらなる情宣活動と講習会の実施が必須と思われる。しかし、学会員はもとより特に学生・院生の関心が高く、今後も基礎的な講習会や講演会を企画していくつもりです。

講習会につきましては、6 月に「WordSmith の有効利用」の開催を予定しています。詳細は未定ですが、確定次第、ML を通じてお知らせします。秋の講習会では、検索ソフト(WordSmith, Txtana, KWIC 等)以外にインターネットの基礎的な使い方や検索結果の分析の方法を取り上げる予定です。

講演会につきましては、現時点では具体的な企画はありませんが、予算の許す範囲でできるだけ実施したいと考えています。会員の皆様の要望をお待ちしております。

東支部支部長 山崎俊次（大東文化大学）

7. JAECS 創立 10 周年記念論文集について

一昨年より計画しておりました JAECS 創立 10 周年記念論文集につきましては、予定を半年遅らせ、来年度春の大会での刊行を目標に本年 1 月に再公募を行いました。すでに最初に応募頂いた論文につきましては審査を終了、9 編の改訂版を提出

いただき、再審査が必要なものについてはその手続きの最中です。事情で遅れている論文が2編ほどある他、再公募には9名の会員から執筆の希望を寄せていただきました。6月10日の締め切りを前に現在執筆いただいているものと思います。素晴らしい論文が届くことを期待しております。

今後の日程ですが、できるだけ早い時期に章立て、掲載順序、書名などを決定、企画書を作成し出版社との交渉に入りたいと思っております。JAECs 創立10周年記念論文集にふさわしい書名がありましたら、事務局までご一報ください。

本格的な編集作業は6月の締め切り以降となりますが、来春出版ということになりますと日程的には後が無い状態です。今後、会員諸氏には審査、あるいは再審査の過程で色々ご面倒をかけるやも知れませんが、その折には、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

JAECs10周年記念論文集編集委員会

8. 学会賞について

学会賞に1件のご推薦をいただきました。秋の大会で審査結果を発表すべく、現在、審査委員会で審査の最中です。

来年度の学会賞に関しましては、来年3月31日が推薦の締切日となります。本年度の業績に限りませんので、どしどしご推薦頂ければ幸いです。推薦理由書はホームページから入手可能です。

英語コーパス学会賞選考委員会

9. 訃報

本学会会員田中康人先生（元兵庫大学）がお亡くなりになり、3月28日付けで、事務局宛に奥様の田中敦子様より以下のような御連絡がありました。

「さて、夫田中康仁は、去る2月21日、心筋梗塞のため、中国の瀋陽にて急逝いたしました。ここに生前のご厚誼を深謝し、謹んでご通知申し上げます。」

田中康人先生は主に北研二先生（徳島大学工学部・非会員）と“Multilingual Parallel Corpus of Major East Asian Countries”というテーマで共同研究をなされていました。その一環として作成された日英パラレルコーパスのテキストファイルをCD-ROMの形で会員に無料で提供していただいたことがありますので、ご記憶のある会員も多数いることと思えます。兵庫大学を退職後は、JICAのシニアボランティアとして中南米方面にお出かけと聞いており

ましたが、突然の訃報に接し、気さくなお人柄で、いつも事務局に色々な御助言をいただいていたことを思い出しました。ご冥福をお祈りいたします。

中村純作（立命館大学）

10. 新入会員紹介

JAECs Newsletter No. 40（2003年3月15日発行）以降の新入会員の方は次の通りです（5月20日現在、Sは学生、敬称略）。なお、住所など詳細に関しましては、今年度版の会員名簿が同封されておりますので、そちらをご覧ください。

秋元 淳（日本大学大学院文学研究科博士前期課程 英文学専攻S）

池内 大輔（広島大学大学院教育研究科言語文化教育 学専攻英語文化教育専修S）

岩中 貴裕（神戸女子短期大学総合生活学科）

木村 博是（近畿大学語学教育部）

阪上 辰也（名古屋大学大学院国際開発研究科S）

辻岡 圭子（大阪大学大学院言語文化学科S）

中村 渉（東北大学留学生センター）

葉谷 明子（名古屋工業大学）

服部 範子（三重大学人文学部）

林 裕二（西南女学院大学）

日木 くるみ（関西外国語大学国際言語学部）

松本 敬子（大阪大学大学院S）

松本 曜（明治学院大学）

宮川 大助（（株）日中産業通信）

森田 信彦（高校教員）

吉岡 宏起（大阪大学大学院言語文化研究科S）

11. 近刊紹介

ダグラス・バイパー/スーザン・コンラッド/ランディ・レッペン著、齊籐俊雄・朝尾幸次郎・山崎俊次・新井洋一・梅咲敦子・塚本聡共訳『コーパス言語学 言語構造と用法の研究』南雲堂（A5判 260ページ 定価 本体3500円＋税）

12. 事務局から

会費納入のお願い

2003年度会費（一般5,000円、学生4,000円）未納の方には郵便振替用紙を同封いたしましたのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2002年度会費未納の方は、2003年度分と併せてお納め下さい（振替用紙にその旨記しております）。なお、このお願いとご入金が行き違いになりました節はご容赦下さい。2年続けて会費未納の

場合(平成13年度、14年度分) JAECs Newsletter等の送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

名簿のご確認のお願い

新入会員も含めて、5月20日現在の会員名簿をお届けします。事務局では、できるだけ正確を期しているつもりですが、一度ご確認の上、誤りがございましたらお知らせ下さい。

事務局の変更

「2. 人事に関する決定事項について」でもお知らせしましたが、今年度より事務局は中村純作先生から赤野に変わりました。学会に関する今後のお問い合わせは下記までお願いいたします。

〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6
京都外国語大学 赤野一郎研究室
TEL: 075-322-6103

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会としてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

次号から「寄贈刊行物の紹介」の欄を設ける予定です。会員諸氏が出版された単行本、発表された論文をお送りいただければ、逐次紹介いたします。

FORUM

ICAME 2003

大東文化大学 山崎 俊次

例年5月に開催されるICAMEが、今年はリバプール大学の主催で2003年4月23日から4月27日にチャンネル諸島のガーンジー島(Guernsey)で開催された。詳細な報告は『英語コーパス研究』に掲載の予定であるが、今年のICAME 2003 “The

Changing Face of Corpus Linguistics”について、例年と違う特徴と簡単な内容の説明をしたいと思う。

世界的な政治と社会の不安定な状況で開催が危惧された今年の学会であったが、新型肺炎SARS(重症急性呼吸器症候群)の影響で、ニュージーランドからの2人とトロント(カナダ)の1人が参加を中止しただけのいつもと何ら変わったところのない学会の雰囲気であった。会議が行われたガーンジー島はリバプール大学レノフ教授(Prof. A. Renouf)の出身地で、独自の司法、税法、行政を持ち、さらに独自の紙幣を有するフランスの影響が残る英国領の小さな島である。

1996年のストックホルム大会から参加して特に今回の大会で違った特徴は何かといえば、まず参加者の多様性である。それは、2年程前にベルギーで開催されたときにICAMEの抜本的な改革と発展に対する参加者の直接討論があり、参加者の拡大と他のコーパス学会関係との密接な連携を重要な課題として、Boardも定期的に入れ替えを実施することが決定されたことの変化を表わしていると実感した。特にヨーロッパを中心に初めて参加するという若い研究者が多数いたことが特徴である。そして、他の学会との連携という点からは、すでに周知のように英語コーパス学会(JAECs)が世界で初めてICAMEの名誉団体会員に認定されたことがあげられよう。現会長の命を受けて代理で名誉会員証を受領して感動したが、以下のような表現をしてあった。

The International Computer Archive of Modern and Medieval English takes great pleasure in conferring upon

The Japan Association for English Corpus Studies Honorary Institutional Membership

In recognition of its contribution to the advancement of
English corpus linguistics

On behalf of the Board

Matti Rissanen

Chairman of the Board

3 February, 2003

さらに参加者の多様性の特徴という点から、アメリカからの参加者が以前より多かったことである。北米コーパス学会を中心的に運営しているミシガン大学から、Rita Simpson、Anne Curzanが参加して、話し言葉のアカデミック・コーパスのMICASEの概略を述べていた。オンラインでアクセスできるコーパスの今後の課題として、ランカスター大学からDavid Leechが赴任してPOSタグ付け、lemmatizationを行い、さらに実際の音声とのリンク付けを実施したいと発表していた。今後さらに北米コーパス学会との連携が密になると確信している。

言語研究を行うとき、OEDの例文やインターネットにある英文がどのようにコーパスとして利用可能かについて、いくつか発表があった。詳細は学会誌に掲載するが、ひとつだけ5言語80以上の新聞の検索を無料でやっているベルギーの若い研究者のGlossaNetというURLをここに載せてJAECs会員の有効利用に寄与したいと思う。

Cedrick Fairon (Universite de Louvain)

<http://glossa.fltr.ucl.ac.be>

最後に今回の学会でハイライトのひとつとして、2時間近くを使った司会者と5人のパネリストによるディスカッションをあげることができる。「文法とコーパス言語学」の題で各人が数分話した後、フロアも加わり、熱い討論が行われた。特に最近出版された*The Cambridge Grammar of English Language*を*Longman Grammar of Spoken and Written English*と比較し、文法書執筆におけるコーパスの果たす役割、さらには理論言語学とコーパス言語学の関係、帰納法と演繹法の問題等など多方面にわたり、コーパス言語学の抱える問題が熱く真剣に討議されて非常に感銘を受けた。司会者のProf. Jan Aartsに後で感想と意見を伺うと、激しい意見の交換をすることでコーパス言語学のさらなる発展を期待していると、おいしそうにコーヒーを飲み干しながら語ってくれた。この種の討論をぜひJAECsの例会で開催したく、その旨を事務局に申し出た次第である。

CL 2003 に参加して

上智大学非常勤 阿部真理子

3月27日から5日間ランカスター大学で200名以上の参加を得て開催されたCorpus Linguistics 2003は、言語学から言語工学を架け渡すという大会趣旨に相応しく、語彙語法研究から言語処理の研究発表まで多種多方面に及んだ。

初日はテーマごとに分化したワークショップの日であったが、私自身はコーパスを用いての第二言語習得研究と教育への応用に興味があるので、投野由紀夫先生(明海大学)とFanny Meunier先生が主催された学習者コーパスのワークショップに参加した。20件ほどの発表の中でも、金子朝子先生(昭和女子大学)の日・仏・中国語を母語とする英語学習者の感情表現の比較研究は、大変興味深く、勉強になった。また今大会では、ついに販売がはじまったInternational Corpus of Learner

English (ICLE)のデモンストレーションもあったのだが、母国語の異なる学習者間の習得研究がより盛んになることを感じさせられた。ワークショップ締めくくりのMeunier先生の言葉、「学習者コーパスは、いまだその揺籃期にあると言われてきたが、すでに次の成長段階に移行したと言えるだろう」が一日の成果を如実に表していた。

二日目以降の研究発表では、ジュディー野口先生(武庫川女子大学)と投野先生が専門英語コーパスの構築と分析について“Using a dedicated corpus to identify features of professional English usage: What do ‘we’ do in science journal articles?”と題して、その有用性を的確に示して下さった。ポスターの部においては、高橋薫先生(豊田工業高等専門学校)がBNCのText typesとRegister Variationに関する研究を披露され、見事に多数の参加者の注目を惹きつけていらっしまった。私も“A Corpus-based Contrastive Analysis of Spoken and Written Learner Corpora: the Case of Japanese-speaking Learners of English”というテーマで参加した。学習者の発話・作文データにエラータグをつけることで、文法項目ごとの誤用法を比較したのであるが、話し言葉については習熟度の差によるエラーの違いについても検証を試みた。

未完ではあるがThe Lancaster Newsbooks CorpusのCD-ROMが無料配布されていたので、一部頂戴してきた。このコーパスは、イギリス政治の動乱期に生まれた今日の新聞の原形とも言えるNewsbook(議会・軍隊・政治的に影響力のある人のニュースを綴った小冊子)等を集めた*The Thomason Tracts*コレクションから50万語を電子化したものだ。最終的には80万語にまで増やしたものが2004年に完成するらしいが、初版CD-ROMの入手方法、またこのコーパスの詳しい情報については<http://www.ling.lancs.ac.uk/newsbooks/>をご覧ください。

ランカスター大学に、院生として在学していた前回の2001年大会ではGeoffery Leech先生の盛大な誕生日パーティーがAshton Memorialにおいて催された。今回も遠く海までを一望できる小高い丘の上にあるこの建物で晩餐会が行われたのだが、水仙の花が咲き誇るイギリスの風景は美しかった。渡英する直前にアメリカの攻撃が始まり、国際情勢に対する不安も大きかったのだが、一切の世相を忘れさせてくれるランカスターは別天地であったと言えよう。個人的には初めての国際学会であり、戸惑うことも多かったのだが、JAECs会員の先生方にお助け頂いたことで、無事参加することができ、大変感謝していることを改めて最後に付け加えさせていただきたい。

英語コーパス学会 Newsletter No. 42

Sept. 11, 2003

■会長：今井 光雄
■事務局：〒615-8558 京都市右京区西院五日町 6 京都外国語大学 赤野一郎研究室
■TEL：075-322-6103 ■郵便振替口座：00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: lakano@kufs.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

第 22 回大会のご案内

英語コーパス学会第 22 回大会は、10 月 25 日（土）明海大学浦安キャンパスで開催されます [〒279-8550 千葉県浦安市明海 8 東京駅から JR 京葉線快速で約 17 分、新浦安駅から徒歩 12 分。:047-355-5120 (内線 1622) URL: <http://www.meikai.ac.jp>] 会場校および外国語学部長小池生夫先生のご好意と運営委員である投野由紀夫先生のご尽力に感謝致します。

詳しくは、同封の「大会資料」をご覧くださいの ですが、今大会では研究発表 3 件とシンポジウムを準備しました。

研究発表につきましては、7 月 26 日（土）に明海大学で開かれた大会準備委員会で審査しました結果、井上亜依さん（関西学院大学大学院生）と西澤緑さん（同大学院生）の共同研究「Have/Did/Do you ever ~ 構文の分析 Larry King Live Corpus を対象にして」、阿部真理子先生（上智大学非常勤講師）の「学習者コーパスを利用した中間言語の変容性研究 日本人英語学習者の話し言葉の分析」、野口ジュディー先生（武庫川女子大学）と井村誠先生（大阪工業大学）による共同研究「ESP のためのジャンルコーパス作成の試み XML によるタグ付与と検索プログラム」の 3 件が選ばれました。

語法研究、学習者コーパスを活用した英語教育研究、XML によるコーパスデザインと検索プログラムの開発など、バラエティに富んだ内容となっております。

シンポジウムでは、「英語構文研究の実践 コーパスの貢献」と題して、深谷輝彦先生（椋山女学園大学）をコーディネーター・司会者に、大室剛志先生（名古屋大学）、滝沢直宏先生（名古屋大学）、都築雅子先生（中京大学）、大木力先生（名古屋大学）に講師を務めていただきます。先

生方は名古屋地区で長年にわたり、コーパスに基づく英語の文法語法研究に精力的に取り組んでこられました。その成果の一部は『英語教育』2000 年 4 月号～2001 年 3 月号に連載されました。今回はその後の成果の一端をご披露いただけることになりました。

認知言語学の用法基盤モデルや構文文法および語彙意味論が注目され、英語の様々な構文やイディオムの分析が提案されている今日、タイムリーで刺激的なシンポジウムが期待できます。

恒例となっております午前中のワークショップでは、Textana 開発者の赤瀬川史朗さん（赤瀬川翻訳事務所）に講師を務めていただきます。赤瀬川さんは昨年秋、夏目書房より『コーパス言語学の技法 テキスト処理入門』を出版されました。今回はこの御著書を踏まえて「コーパス言語学のための Perl 入門」と題したワークショップをお願いしました。滝沢先生が類似のテーマでワークショップをされていますが、UNIX 環境でのお話でした。今回は、Windows 環境において CUI プログラムを扱うための基礎知識に重点をおいてご指導いただきます。用いたツールや資料はワークショップ後もホームページからダウンロードして利用できるようにしていただけるとのことです。

参加御希望の方は、あらかじめ事務局宛に、葉書あるいは電子メールでお申し込み下さい。先着 45 名で締め切らせて頂きます。英語コーパス学会の会員であれば参加費は無料です（非会員の場合は当日会費 1,000 円）。

『英語コーパス研究』第 11 号について

『英語コーパス研究』第 11 号（2004）の原稿を募集しましたところ、論文 7 件の申し込みを頂きました。その他に、特別寄稿として、21 回大会で

特別講演をして頂いた齊藤俊雄先生に講演要旨の執筆をお願いしています。さらに研究ノート、書評を予定しています。9月末日までにご応募頂ければ、審査の対象となりますので、ぜひとも奮ってご応募下さい。お待ちしております。なお、投稿規定は http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/Guidelines/ECS_SGuide-j.html をご覧下さい。

『英語コーパス研究』編集委員長
深谷輝彦

JAECS 創立 10 周年記念論文集編集委員会報告

最初の予定から大幅に遅れていますが、JAECS 創立 10 周年記念論文集編集の経過をご報告いたします。最初に応募頂いた論文 15 編については、本年 3 月末までに、改訂版を提出頂き、再審査の必要なものについては再審査を受けて頂きました。6 月 10 日締め切りの再公募には 7 編の応募がありました。これら 7 編の論文については、7 月の下旬に審査結果を通知、8 月末までに改訂版を提出して頂き、現在審査中です。9 月 3 日開催の編集委員会では、12 編の論文については掲載することを確認し、3 編については最終的な判断を保留、審査結果を待つということになっております。

今後は出版企画書を作成し、ヨーロッパの出版社との交渉に入る予定であります。現在のところ、ページ数 250~300 ページ、B5 変形のハードカバー、書名は *English Corpora under Japanese Eyes: JAECS Anthology Commemorating its 10th Anniversary* を予定しております。もっとインパクトのある適切な書名がありましたら、是非、編集委員会までお寄せ下さい。

編集委員会では、今後、最終的な編集作業に入りますので、執筆頂いてる先生方には色々ご協力をお願いすることになると思います。また、ここまで来るには、会員諸氏に色々お世話になりました。ご投稿頂いた会員のみならず、お忙しい中、47 名の方に審査の労をとって頂きました。ご協力有り難うございました。この場をかりて厚く御礼申し上げます。会員諸氏のご協力に答える形で、来春には刊行できるよう編集委員一同努力するつもりでありますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。

JAECS 創立 10 周年記念論文集編集委員会
中村 純作

学会賞応募規定

第 3 回の学会賞を募集致します。応募規定は次の通りです。

【対象】英語コーパス学会の目的に照らし、英語のコーパス言語学に関する優れた研究業績をあげた学会員(個人またはグループ)とする。ただし、奨励賞は応募期限日において 35 歳以下の個人に限る。

【応募方法】自薦、他薦を問わない。

【提出書類】1) 推薦理由書(ホームページより入手可能)、
2) 対象となる研究業績の現物またはコピー。

【提出先】事務局

【応募期限】2004 年 3 月 31 日

【発表】2004 年度秋季大会

東支部活動報告

東支部の主催の「第 10 回コンピュータ講習会」を下記の要領で開催致します。研究者のみならず、学生、院生、中高教員等、言語学研究・教育の観点からコーパス言語学に興味のある方の参加を願っています。ご希望の方は下記に連絡ください。

日時 平成 15 年 11 月 29 日(土) 14:00~16:00

場所 大東文化大学板橋校舎

講師 山崎俊次、見目卓之

内容 BNCWeb の効果的な利用法

人数 30 名

費用 会員・学生・院生無料、非会員 500 円

申し込み先

JAECS 東支部支部長

山崎俊次

新入会員紹介

JAECS 会員名簿(2003 年度版)発行以降の新入会員の方は次の通りです(敬称略)。

熊谷 哲孝 (富士大学経済学部)

西澤 緑 (関西学院大学大学院生)

田上 芳彦 (駿台予備校)

小室 誠一 (株式会社パベル)

Mintash, Talat Mohammed Hassan (大学院生)

名簿訂正のお願い

(住所・電話番号については、郵送されるニュースレターをご参照ください)

今年度の会員名簿の記載内容に誤りや、変更がございます。誤りについては事務局の不手際をお詫び致しますとともに、以下のようにご訂正下されれば幸いです(敬称略)。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報下さい。

家入 葉子
大堀 壽夫
長田 哲男
富田 祐一 (住所変更)
森田 光宏(名古屋大学大学院生)
吉澤 博志 〒167-0042
賛助会員

株ベネッセコーポレーション(竹内 新)
〒101-8685 千代田区神田神保町 1-101 神保町
三井ビルディング 15 階
株ベネッセコーポレーション辞典企画室
03-3259-1161

事務局から

会費納入のお願い

2003 年度会費(一般 5,000 円、学生 4,000 円)未納の方には郵便振替用紙を同封致しておりますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2002 年度会費未納の方は、2003 年度分と併せてお納め下さい(振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2 年続けて会費未納の場合、*JA ECS Newsletter* などの送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

前号で「寄贈刊行物の紹介」欄を新設する旨の

ご連絡を致しましたが、残念ながら、今回はお知らせ頂けませんでした。ML での齊藤俊雄先生(大阪大学名誉教授)の呼びかけ(JAECS:83)にもありましたように、日本における英語コーパス言語学の研究業績書誌をまとめる必要があります。次号には是非掲載したいと思っておりますので、会員諸氏のご協力を切に願う次第です。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書を紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですでお寄せ下さい。

FORUM

David Denison, Olga Fischer 両教授の講演会

家入 葉子(京都大学)

6 月 4 日(月)の 16 時 30 分より、京都大学文学部にて David Denison 教授(マンチェスター大学)と Olga Fischer 教授(アムステルダム大学)の講演会を開催致しました。

Denison 教授は、*The Cambridge History of the English Language, Vol. IV: 1776-1997* の“syntax”の章(pp. 92-329)の執筆のために作成した A Corpus of Late Modern English Prose を以前より Oxford Text Archive に公開しておられます。また今回の来日の直前には、A Corpus of Late Eighteenth-century Prose を公開されました。ただし京都大での講演会では、後期近代英語に限定することなく、古英語から現代英語までのコーパスから多数の用例を引用しながら、指示詞と形容詞のカテゴリーの問題を gradience の立場から議論されました。講演のタイトルは“Arguing with determination: class conflict in English nominals”となっています。Denison 教授の作成したコーパスについての情報は、<http://www.art.man.ac.uk/ENGLISH/staff/DD/home.htm> より取得することができます。

一方、Fischer 教授の講演のタイトルは、“Developments in the category adjective from Old to Middle English”で、偶然にも Denison 教授と部分

的に共通するテーマになっております。Fischer 教授の議論は、Penn-Helsinki Corpus of Middle English の分析をもとに、古英語から初期英語にかけての形容詞の機能の流動性と語順の変化を扱ったものでした。Fischer 教授は、近年は認知に関わる研究でも知られていますが、今回は歴史的コーパスを扱った研究をご発表いただきました。Fischer 教授のホームページ (<http://home.hum.uva.nl/iconicity/>) には、iconicity に関わる詳しい情報も掲載されています。

お二人とも、6月6日～8日に名古屋大学で開催された国際シンポジウム「総合テキスト科学の構築」への参加が来日の主な目的で、途中京都にお寄りいただくことで今回の講演会が実現しました。ちなみに名古屋大学でのシンポジウムには、Helsinki Corpus で知られる Matti Rissanen 教授も参加されましたが、日程の都合で京都での講演会においでいただけなかったのは残念でした。Rissanen 教授、Denison 教授、Fischer 教授は、いずれも先に述べた *The Cambridge History of the English Language* の執筆を担当しておられ、早くからコーパスを英語史研究の分野に応用しておられます。今回は、3名そろっての来日となりました。

最後になりましたが、京都大学での講演会には学会からのご協力をいただきました。また平日にも関わらず、会員の方々にも多数ご参加いただきました。この場をかりてお礼申し上げます。

IMC2003 参加記

園田 勝英 (北海道大学)

毎年7月中旬に英国 Leeds 大学で開かれる International Medieval Congress(国際中世学会)は、第1回が1994年であった。今年のIMC2003は第10回の大会であるから、歴史は我が英語コーパス学会とほぼ同じである。ウェブページ (<http://www.leeds.ac.uk/imi/imc/imc.htm>)を見ると、来年(IMC2004)は勿論、再来年(IMC2005)の日程も決まっているようだ。

扱うテーマは中世(c.300-1500)に関することならば何でもということで、文学、言語、歴史、芸術、政治を中心に実に多彩だ。中世研究にコンピュータを如何に活用するべきかということについての発表も多い。この点で、本コーパス学会と研究領域が重なっている。テーマの多様性を反映してか、発表者あるいは司会者として大会プログラムに名前が記載されている人の数が1100、各20分間の発表三つで構成されるセッションの数が350にのぼる。参加者を地域別に見ると、英国、北米、その他がそれぞれ三分の一ずつのことである。

このIMC2003において、The Paston Letters in XML と題して、池上恵子先生(成城大学)に司会をお願いし、小原平(東京慈恵医科大)、森田彰(早稲田大)、筆者が一つのセッションを組んで発表を行った。写本の電子化、テキストのXML化、文法的タグ付けをめぐり、各発表者はそれぞれの研究成果を基にして、いろいろな角度から論じた。多くの質問やコメントをフロアから受けたが、中でもオランダから来ていた Karina van Dalen-Oskam 氏(Netherlands Institute for Scientific Information Services)が我々の発表に深い関心を示し、貴重なコメントをしてくれたのは有難かった。氏は13世紀オランダ語写本の電子化に取り組む中で、我々と同様の問題に直面し解決した経験を持っていたのだ。だから、話しがよく通じだし、後で送ってもらった彼女の論文は我々の今後の研究に大いに参考になるものだった。

学会では25のセッションが同時に進行していて、聴衆は一部屋10人前後である。このため、各会場には興味を共有する少数の研究者が集まり、くつろいだ雰囲気の中で内容の濃い討議が行われていた。この運営方式は、中世研究という幅広い研究領域によく合致していて、IMCの魅力になっていると思う。この他に欧米の出版社による大規模な書籍展示、近隣の史跡を訪ねる小旅行、マナーハウスを改装した会場 かつての馬屋はバブになっている など、研究発表以外にも楽しめるものが多い。

英語コーパス学会 Newsletter № 43

Dec. 10, 2003

■会長：今井 光規
■事務局：〒615-8558 京都市右京区西院笠田町6 京都外国語大学 赤野一郎研究室
■TEL：075-322-6103 ■郵便振替口座：00940-5-250586 (英語コーパス学会)
■URL: <http://muse.doshisha.ac.jp/JAECS/index.html> ■E-mail: i_akano@kufs.ac.jp

JAECS
Japan Association for English Corpus Studies

会長の交代

大会前日の10月24日(土)に開催されました運営委員会において、校務多忙のため辞意を漏らされていた今井光規先生の会長退任が承認されました。引き続き次期会長の選出について審議し、中村純作先生(立命館大学)を満場一致で次期会長(任期は2004年4月～2006年3月)とすることに決定し、ご本人から承諾を得ました。

今井先生には2001年4月より来年3月末日で会長職を3年務めていただいたこととなります。先生が学会の発展に尽くされましたことに対して、深く感謝申し上げます。

第22回大会報告(1) 概要報告

英語コーパス学会第22回大会は、10月25日(土)、明海大学浦安キャンパスで開催されました。当日は天候にも恵まれ、事務局の調べでは会員の参加者74名、新入会員2名、当日会員23名、賛助会員1名の合計100名の出席がありました。

恒例になっております午前中のワークショップは「コーパス言語学のためのPerl入門」と題してLago言語研究所の赤瀬川史朗氏に講師を務めていただきました。基本的なコマンドの使い方と、ファイル処理、スクリプト言語Perlの紹介、フリーウェアCAT(Corpus Analysis Toolkit)によるXML文書コーパスの分析まで、密度の濃い内容のワークショップに45名の参加者が熱心に取り組みました。

午後の大会では、今井光規会長(摂南大学)の開会の挨拶のあと、開催校を代表して、明海大学英米語学科長の原小庄輔先生からお言葉をいただきました。その後、第2回JAECS学会賞の発表がありました。選考委員会委員長の中尾佳行先生(広島大学)より選考経過の説明と、今年度のJAECS学会賞を井上幸幸・赤野一郎(編)『ウィズダム英和辞典』(三省堂2003)を編集された2名の編者に贈呈する旨の報告をいただき、会長より編者の井上幸幸(徳島大学)、赤野一郎(京都外国語大学)両氏に賞状と副賞が贈られました。なお、今年度の奨励賞には該当者がいませんでした。

引き続き3件の研究発表とシンポジウムが行われ

ました。概要につきましては、司会の先生にご執筆願いました「研究発表報告」と「シンポジウム報告」をご覧ください。

大会終了後の懇親会には30名を越す会員に出席して頂きました。西村秀夫先生(山口大学)に司会をお願いし、会長挨拶、乾杯のあと、会員同士の交流と情報交換でおおいに盛り上がり、午後8時にすべての大会行事が終了いたしました。

東京駅から30分と、関西からのアクセスにも便利な明海大学浦安キャンパスで行われた第22回大会は、無事、成功裏に終えることができました。これも、開催校である明海大学の投野先生の献身的なお力添えがあつてのことでした。また、素晴らしい会場を提供いただいた明海大学にも、この紙上を借りて厚くお礼申し上げます。学生の皆さんにも、会場準備、受付などのお手伝いをいただき大変お世話になりました。お礼申し上げます。

第22回大会報告(2) 研究発表報告

Have/Did/Do you ever ~ 構文の分析
- Larry King Live Corpusを対象にして -

井上亜衣・西澤緑(関西学院大学大学院生)

本発表はアメリカのトーク番組である“Larry King Live”の対話をもとに、関西学院大学の八木克正教授が作成した口語コーパス、Larry King Live Corpus(以下LKL Corpus)を使用し、“Have you ever ~ / Did you ever ~ / Do you ever ~”の3つの構文がどのように使用されているかを分析したものであった。

発表はLKL Corpusの成り立ちや構成の紹介、およびその有用性の説明より始められた。次にこの3構文についての従来の語法説明が各種文献にてどのように扱われてきたかを概観した上で、発表の主目的であるLKL Corpusを用いた3構文の数量的分析が行われた。まず3構文に共起する動詞に着目し、3構文間で有意な差が見られるbe, feel, get, say, thinkの5つの動詞について、その用法の実態が報告された。be動詞についてはHave you ever ~での共起が多く、受動態が用いられる場合はHave you ever been ~が用いられ、Were you ever ~などの他の形は少ないことなどが明らかにされた。また、Did/Do you ever ~ではfeel, say,

think が共起し、Have you ever ～の代用として用いられていたことが述べられた。従来の研究結果と比較して、答え方の特徴には今までの説明と合う実態が見られなかったことや、結論の最後には Do you ever ～と Did you ever ～の用法の大きな差異が見られなかったことも報告された。発表をしめくくるにあたり今後の課題として、文脈を詳細に検証し、その差異を明確にして行くこと、Did you ever ～が代用される理由を検討すること、などが述べられた。

フロアからは統計量の処理について、また文脈付きでデータを分析することの有用性についてのコメントや、同一話者の3構文の使い分けなどが見られなかったか、といった質問があり、本研究の今後の研究の可能性を広げる有意義な質疑応答となった。

吉村 由佳 (慶応大学非常勤講師)

コーパスを利用した中間言語の可変性研究 - 日本人英語学習者の話し言葉の分析 -

阿部真理子(上智大学非常勤講師)

この研究では日本人英語学習者による学習者コーパスを利用して、話しことばと書きことばについてその中間言語の可変性を考察した。使用したコーパスは会話と自由作文を記録したものである。会話コーパスは将来100万語規模で公開が予定されている Standard Speaking Test (SST)コーパスのうちモニター用100名についてのデータである。作文コーパスは会話コーパスと同じタスクになるよう、SSTと同様の絵を描写するタスクを課したものである。

両コーパスには活用、単複、格などの文法、語彙にかかわるエラータグをXML形式でつけた。また、正用法の比率を出すため CLAWS7により品詞タグも付与した。このデータをコレスポネン分析にかけ、誤・正用法の頻度を比べた。その結果、(1)エラーの方が、モードごとの差が出る、(2)書き言葉の方が、正・誤の差が出る、(3)モードの差をコレスポネン分析で探ることはむずかしい、(4)文法項目ごとの特徴もつかみにくい、(5)書きことばと話しことばの区別が明確ではないことが浮かび上がってきた。日本人学習者の英語は書きことばの特徴を十分持っておらず、多分に話しことば的であると言える。

習熟度とエラーについて比べると、(1)上位と下位にあまり観察されないエラー(n_agr, n_cnt, n_inf)、(2)レベルの低い学習者に特徴的なエラー(v_agr, v_tns)、(3)上位層に見られるエラー(n_lxc、すなわち語彙選択のエラー)がみられた。また、習熟度に比例して正使用が増える項目が見られたのが大きな特徴である。エラーと習熟度レベルには一定の相関があるものの、それはエラー項目によって関係が複雑に変わる。また、正用法と習熟度レベルの関係はエラーを見るよりも正用法を見る方がレベル特定に役立つものがあるというのは思いがけない知見であった。

朝尾 幸次郎 (立命館大学)

ESPのためのジャンルコーパス作成の試み

- XMLによるタグ付与と検索プログラム -

野口ジュディー(武庫川女子大学)

井村誠(大阪工業大学)

当発表は、ESP(専門分野別英語)教育への応用に向けた、ジャンルコーパス作成を紹介したものである。発表における分担では、レトリック構造に関する部分を野口氏が担当し、XMLによるデータベース化を井村氏が担当した。

はじめに、Discourse Communityにおける言語の特質を明らかにし、効果的な教育にジャンルコーパス作成が必要であることを明らかにした。Noguchi(1997)は、PAILとOCHAによるアプローチを提唱しているが、この実現のためにジャンルコーパスの作成が必要となる。今回はこのうち、レトリックに関わる部分に注目し、Move、Step、Sentenceという3段階の構造およびタグを設定した。

この構造に沿うよう、2001年度 Fortune ランキング上位8社の年次報告書冒頭のCEO's Message(約13600語)を、XMLの書式に従ってタグ付けを行い、データベース化した。さらに、このデータベースより、レトリックに必要とされる語句を検索するためのシステムを開発し、その一部を紹介した。検索システムでは、スタイルシート(XSL)を使用し、検索語句がどのようなレトリック構造に現れているかを容易に表示することが可能となっている。このシステムを基に、教材化・自律発見学習支援(e-learning)へ向けた取り組みとなる見通しが示された。

以上の発表に対して、レトリックタグの設定については、MoveやStepなどの判断基準の設定は、主観的な設定となり、作成者により、判定に差異が生じる可能性があるのではないか、という質問がなされた。これに対しては、複数で同一テキストにタグ付けをし、協議しつつ設定を明確にしている旨の回答があった。また、説得力を要求される科学論文、プレゼンテーションにも同種の構造化、タグ付けが行われているが、普遍的なタグの設定についての質問が出された。

検索システムについて、実際の検索の事例のみで、その仕組みについての言及がなかった。同種のコーパスを作成されている方のために、今後、検索システムの概要が示されることが望まれる。

塚本 聡 (日本大学)

第22回大会報告(3) シンポジウム報告

英語構文研究の実践

- コーパスの貢献 -

本シンポジウムの目的は、英語構文研究においてコーパスを用いる意義を問うことであつた。具体的には、英語直観とコーパスデータの関係、構文の基本形と変種の同定、構文に課せられる語彙的制約という三つの

論点を中心に、各講師が特定の英語構文の特徴を論じた。

基本形と変種の同定にあずかる大規模コーパス

- 同族目的語構文を例に -

大室剛志講師(名古屋大学)は、最初に構文が基本形から変種まで連続的に存在するという多重的な文法観を説明した。その上で、同族目的語構文を五つの特徴の束として性格づけ、それぞれの特徴を欠く変種を一つ一つ丁寧に論じた。英語話者の直観だけでは得られないコーパスデータの豊かさを例証した。

周辺の構文を記述するためのコーパス利用

- 現代英語における SOV 構文を例に -

滝沢直宏講師(名古屋大学)は、現代英語において SOV 構文という周辺の構文が存在することを豊富な実例で明らかにし、同時にその構文と語彙の関係を t-score や MI-score という統計値で探る手法を提示した。後の質疑応答では、この構文に対する質問が多く寄せられ関心の高さが示された。

コーパスと理論的分析における仮説、制約の提案・検証

- 結果述語の範疇選択の問題を通じて -

第3番目に都築雅子講師(中京大学)が、英語の結果構文、特にその結果述語が形容詞句か、前置詞句かという問題を解決する際に、仮説の提案、検証作業にコーパスが重要な役割を果たすことを議論した。さらに、典型例、非典型例峻別のためにコーパスの質量両面からの検討が必要であると主張した。

コーパスからデータが得やすい構文、得にくい構文

- a beautiful two weeks と book after book を例に -

最後の大名力講師(名古屋大学)は、コーパスを利用した構文研究に向いている名詞句として a beautiful two weeks というタイプを、逆にコーパスからのデータが得にくい名詞句として book after book のような名詞+前置詞+同一名詞という構文を取り上げた。そしてコーパスデータが構文研究を進化させる様子を描いた。

これらの発表に続いて、フロアからそれぞれの構文に関する質問のみならず、構文研究にとって理想的なコーパスサイズはどれくらいか、母語話者の言語直観の必要性などコーパス言語学にとって本質的な問題が提起された。それに講師が答えると、フロアから別の角度から新たな問題が出されるというように活発な質疑応答が繰り返され、予定の終了時間を大幅に超過してシンポジウムを終えた。

深谷 輝彦 (相山女学園大学)

第23回大会の日程と研究発表募集

2004年度の春期大会(第23回大会)は4月24日(土)に京都外国語大学(〒615-8558 京都市右京区西院笠目町6 [http://www.kufs.ac.jp]) JR 京都駅から30分で開催される運びとなっております。是非、今から出張の予定に組み込んで頂ければ幸いです。大会準備委員、会長、事務局ともどもお待ちしております。

大会での研究発表を次の要領で募集いたします。発表を希望される方は、下記の要領に従って、電子メールで事務局にお申し込みください。

【資格】本学会会員であること

【内容】本学会にふさわしい、コーパス利用・コンピュータ利用を中心に据えた研究

【提出物】発表要旨をA4判25字×32行で4枚以内にまとめMS Word、一太郎、PDFファイルで提出すること。ただし、参考文献表は枚数に含めない。要旨の冒頭には題名のみを記す。メール本文には氏名(ふりがな)、所属・職名、住所、電話番号、電子メールのアドレスを明記すること。

【応募締切】2004年1月8日(木) 必着

【採否決定】2004年1月末日(予定)

【その他】発表25分+質疑応答10分

学会賞募集

第3回の学会賞を募集致します。応募規定は次の通りです。推薦される方は同封の推薦理由書をお使いください。ホームページからも入手可能です。

【対象】英語コーパス学会の目的に照らし、英語のコーパス言語学に関する優れた研究業績をあげた学会員(個人またはグループ)とする。ただし、奨励賞は応募期限日において35歳以下の個人に限る。

【応募方法】自薦、他薦を問わない。

【提出書類】1) 推薦理由書

2) 対象となる研究業績の現物またはコピー。

【提出先】事務局

【応募期限】2004年3月31日

【発表】2004年度秋季大会

会誌『英語コーパス研究』第11号について

『英語コーパス研究』第11号(2004)に多くのご投稿をいただき、ありがとうございました。第21回大会でご講演をいただいた齊藤俊雄先生からご寄稿いただき、巻頭を飾る予定です。第22回大会で催され、好評を博したシンポジウム「英語構文研究の実践

コーパスの貢献」を活字化するべく、発表者から原稿を集めています。さらに今回は研究論文9本、研究ノート1本、ソフトウェア紹介1本、書評1本が寄せられ、現在審査を進めています。コーパスを利用した様々な英語研究が活発に進められている証と受け止めることができます。

第22回大会の前日に開かれた運営委員会で『英語コーパス研究』編集委員の交替が審議され承認されました。保坂道雄氏が委員を辞され、代わりに岡田毅氏が編集委員に選出されました。したがって『英語コーパス研究』第11号の編集は、山崎俊次、大津智彦、岡田毅、塚本聡、深谷の5名で構成する編集委員会が担当します。どうかよろしくお願いいたします。

最後に、今後とも会員のご協力を得ながら、より質の高い学会誌の編集をめざしたいと思っていますので、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いに存じます。

『英語コーパス研究』編集委員長
深谷 輝彦

JAECs 創立 10 周年記念論文集編集委員会報告

JAECs 創立 10 周年記念論文集編集のその後の経過です。編集委員会では、最終的に書名を *English Corpora under Japanese Eyes: JAECs Anthology Commemorating its 10th Anniversary* とし、12 編の論文を採用することになりました。さらに、9 月の Newsletter でご報告しましたように、出版企画書を作成、先ずヨーロッパの出版社との交渉に入ることに致しました。

交渉に先立ち、会長より Aarts 先生に Rodopi へのご紹介をお願いしましたところ、企画書に目を通された Aarts 先生から、Rodopi から直接出版するのか、それとも Aarts 先生が編集主幹であった Language and Computers Series として出版したいのかとの問い合わせがあり、会長と編集委員で協議致しました。出版の時期が大幅に遅れていますが、この際、単独出版ではなく権威あるシリーズの一巻として出版した方が良いとの結論になり、シリーズに加えて欲しい旨会長から Aarts 先生にご返事を差し上げました。Aarts 先生からはシリーズの現編集主幹である Charles Meyer 先生 (University of Massachusetts at Boston) に推薦状と出版企画書をお送り頂き、Meyer 先生からシリーズに入れても良いのご返事を頂いております。というわけで、現在、Rodopi との正式契約のため書類が到着するのを待っている状態です。

編集委員会での作業はほぼ完了しておりますので、今後、シリーズの編集委員の先生方の審査を受けることとなります。編集委員会から最終稿を Meyer 先生にお送りし、フィードバックを頂いた上で、再度執筆者の皆様には改訂版をお作り願うことになると思われます。御投稿頂いた会員諸氏には、今しばらくお待ち頂くことと、お手を煩わせることになりました。でき

るだけ早い時期に出版できるよう編集委員会では努力しておりますので、よろしくご協力のほどをお願い致します。

JAECs 創立 10 周年記念論文集編集委員会
中村 純作

BNCWeb の効果的な利用法

標題のタイトルで東支部主催第 10 回コンピュータ講習会を、11 月 29 日 (土) に大東文化大学で開催した。山形から広島までの会員・学生約 20 名が参加し、塚本聡氏(日本大学)と見目卓之氏(大東文化大学院生)の指導の下に講習が行われた。

BNCWeb は UNIX にインストールして検索するツールなので、塚本氏はまず自分の研究室のコンピュータへのアクセス方法を教え、山崎研究室と二台のコンピュータを使うことで負荷の軽減をはかった。そして、godzilla という単語を使った基本的なコンコーダンスの出し方や、deal を使ったレジスター変異の分析方法を実習した。その後、different from/to/than をテキストカテゴリー別に分類し年代、性別等の細かい分析が可能であることを実践した。

見目氏は、まず Query string の効果的な表現を扱い、(cat|dog), cat*dog, cat#dog 等の違いを示した。そして、「性差」の分析と「軽動詞 make/take」の分析の 2 つのケーススタディーをあげて講習をした。最初の性差は、Tannen(1991)の言語の男女差を基本テーマに、「どちらが噂話をより好むか」という分析をした。2 番目のテーマは make a decision / take a decision を例にあげて、decision を修飾する形容詞の違いや軽動詞(light verb)の使用頻度に相違はあるのかといった分析をした。

内容の濃い講習会であったが、最初に 2 台のコンピュータへのアクセスに時間を要したり、講習の間もコロケーションを検索するときは特にコンピュータに負荷が相当かかり検索時間が長くなってしまったため、時間内に計画した内容をじっくり各自が検索して実習することができず残念であった。しかし参加者は BNCWeb の効果的な利用方法がある程度体験できたことを喜んでいった。

東支部の活動もようやく軌道に乗ってきた感があるのは、喜ばしいことである。東支部設立当初から支部長を務めてきたが、コーパス学会の執行部も新体制になったのを機会に、来年度から新井洋一氏 (中央大学) が新しい東支部長として就任されることが運営委員会で決まったこととお知らせし、書面をもって今までのご協力、ご理解に感謝したい。

JAECs 東支部支部長
山崎 俊次

ここまで身近になった BNC 検索

11月29日(土)に京都外国語大学において、関西地区を中心とする会員を対象に、「小学館コーパスネットワーク(SCN)」が提供する BNC 検索の講習会が開かれました。このサービス開発に直接関わった中村隆宏氏に講師を務めていただき、33名の参加者が BNC Online の実際のサービスを体験しました。

実習では、ログインとログアウトの方法から始まり、各種検索方法、ソートと語句の集計、Spoken と Written の検索結果の比較、KWIC の表示形式の切り替えと KWIC のダウンロード、各種の統計量(Tスコア、MI、LogLog)による共起表の再ソートに至るまで、ほとんどすべての機能を学習できました。最後に小学館が独自に開発したコーパス問合せ言語(CQL)を用いてコーパスの検索を行う「小学館 LanguageToolBox」のデモが行われ、予定の2時間を超える充実した講習会でした。



今までのオンライン検索サービスは、一般ユーザーにとって敷居が高かったのではないのでしょうか。たとえば、WordbanksOnline の場合には telnet や ftp のインターネット機能を学ぶ必要がありましたし、Windows の GUI 環境に慣れているユーザーにはコマンドモードは親しみにくかったでしょう。BNC の専用検索プログラム Sara は高機能なのですが、習熟するのに時間がかかるなどの難点がありました。SCN のシステムの優れている点は、独自に開発されたコーパス検索専用ソフト SAKURA がユーザとコーパスをつなぐインタフェースの機能を果たし、ユーザーはブラウザ1つで大規模コーパスにアクセスできるようになったことです。インターネットを使える環境であれば、どこからでも1つのアカウントで検索サイトにログインし、画面上のボタンとリンクをクリックすることにより、すべての機能が簡単に使えます。2004年4月からは Wordbanks Online のサービスも始まるということです。

JA ECS 事務局長
赤野 一郎

コーパス言語学の特集

『英語青年』(2004年2月号)にコーパス言語学の特集「コーパス言語学の現在」が組まれます。執筆者と題名は次の通りです。ご期待ください。

- ▶ 「コーパス言語学を概観する」
中村 純作 (立命館大学)
- ▶ 「英語学研究におけるコーパスの役割」
深谷 輝彦 (椋山女学園大学)
- ▶ 「語彙研究とコーパス」
赤野 一郎 (京都外国語大学)
- ▶ 「文法研究とコーパス—結果構文の分析から」
都築 雅子 (中京大学)
- ▶ 「英語史研究とコーパス」
家入 葉子 (京都大学)
- ▶ 「辞書とコーパス」
井上 永幸 (徳島大学)

新入会員紹介

JA ECS 会員名簿(2003年度版)発行以降の新入会員の方は次の通りです(敬称略)。

- 葉田野不二美 (東京学芸大学大学院(S))
- 大野 英志 (倉敷芸術科学大学)
- 野田 寿之 (仏教大学大学院(S))
- 金澤 俊吾 (岩手県立大学宮古短期大学部)
- 横島 亜美 (北海道大学大学院(S))
- 小牟田康彦 (広島国際大学 医療福祉学部 医療経営学科)

名簿訂正のお願い

(個人の住所および電話番号は、オンライン版のニューズレターでは公開しておりません。郵送されるニューズレターをご覧ください。)

今年度の会員名簿の記載内容に誤りや、変更がございます。誤りについては事務局の不手際をお詫び致しますとともに、以下のようにご訂正下されば幸いです(敬称略)。事務局では、会員名簿のできる限り正確な管理に努めております。誤りや変更がございましたらご一報下さい。

- 秦正 哲
- 秋山孝信
- 大羽 良
- 滝沢直宏 d
- 中戸一子 (住所変更あり)
- 夏目和子 (住所変更あり)
- 中島浩二 (住所・電話番号変更あり)
- 石川有香 (住所変更あり)
- 岡田 毅 (電話番号変更あり)

神谷健一 (電話番号変更あり)
見目卓之 (住所変更あり)

千葉庄寿 麗澤大学 外国語学部
(住所・電話番号変更あり)

事務局から

会費納入のお願い

2003 年度会費 (一般 5,000 円、学生 4,000 円) 未納の方には郵便振替用紙を同封致していますのでお納め下さい。郵便局発行の受領証をもって領収書に代えさせていただきます。

2002 年度会費未納の方は、2003 年度分と併せてお納め下さい (振替用紙にその旨記しております)。行き違いになりました場合は、何とぞご容赦下さい。2 年続けて会費未納の場合、*JA ECS Newsletter* などの送付を中止させていただきます。

住所、所属等に変更や異動のある方は、必ず通信欄にお書き添え下さい。

その他

事務局では、シンポジウムやワークショップの企画・アイデアを随時募集しております。英語コーパス学会の大会プログラムとしてふさわしい内容のものがありましたら、どしどしご提案下さい。

FORUM 欄への投稿もお待ちしております。海外の学会・研究の動向、新刊・近刊図書の紹介、身近なコーパス研究のエピソード等でも結構ですのでお寄せ下さい。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

FORUM

◆CD-ROM 辞書の可能性

赤野 一郎 (京都外国語大学)

会員諸氏の中にはすでにご利用の方も多いと思うが、CD-ROM 辞書の新しい方向性を示す *Longman Dictionary of Contemporary English*⁴ (2003) を紹介する。周知のように、1995 年に英国の主要な出版社から競うように ESL/EFL 辞書の改訂版 (LDOCE³, *Collins Cobuild English Dictionary for Advanced Students*³, *Oxford Advanced Learner's Dictionary*⁶) あるいは新刊 (*Cambridge*

International Dictionary of English) が出版され、いずれの辞書も“corpus-based”であることを売り物にした。その後も OALD⁶ (2000), *Macmillan English Dictionary* (2002; <http://www.macmillan-dictionary.com/>), LDOCE⁴ (2003), *Cambridge Advanced Learner's Dictionary* (2003) COBUILD⁴ (2003) が相次いで出版され、ESL/EFL 辞書界はさながら「辞書戦争」の様相を呈している。

これらの辞書に共通しているのは、無料の Web 辞書 (<http://www.longman-elt.com/dictionaries/webdictionary.html>; <http://www.macmillandictionary.com/aboutonline.htm>; <http://www.oup.com/elt/oald/>; <http://dictionary.cambridge.org/>) を公開していることと、CD-ROM を同梱していることである。しかもそれらの Web 辞書は絶えず更新が行われており、CD-ROM 版は単に冊子辞書のデジタル版ということに止まらず、記憶容量の利点を活かして、冊子辞書以上の情報を盛り込んでいる。その点で、LDOCE⁴ の CD-ROM 版は画期的である。Phrase bank, Examples bank, Activate your language の 3 つの補助窓があり、Phrase bank は定型句の目次になっており、そこから本文の当該箇所や別見出しにジャンプでき、参照性を高めている。コロケーションも表示され、Examples bank に収められている用例とリンクしている。Examples bank では本体の辞書に収めきれなかった用例を一覧表示あるいは KWIC 表示することができる (下図)。



Activate your language の窓は同梱されている類義語辞典の新版、*Longman Language Activator*² とリンクしており、表現辞典としての機能を高めている。